

ハイデルベルク信仰問答より

問 70 キリストの血と御霊で洗われるということは、何を意味していますか。

答え それは、キリストの十字架上の犠牲において、私たちのために流されたキリストの血のゆえに、恵みにより、神から罪の赦しを受けることを意味しています。またそれは、聖霊により新しくされ、キリストの肢として潔められ、したがって私たちが一段と罪に死に、聖別されて、罰せられることのない人生を生きるということでもあります。

問 69 では、洗礼には「古き人の死」と「水の洗い」の両面の意味があるということを知りました。どちらかと言うと本問答書では「水の洗い」に重点が置かれていますが、ここでは更に「キリストの血と御霊で洗われる」と言い直されています。問 69 の答えを振り返っておきますと、「キリストがこの外的な水の洗いを定められ、それによって、私が主の血と御霊をもって、確かに、私の魂の不潔さとすべての私の罪を洗われる、ということに約束してくださった」と言われていました。問 70 は、これを受けてもう一步議論を展開しているのです。

今日の内容は二つのポイントで理解することができます。「キリストの血と御霊」による洗いは、人に ①罪の赦し と ②新生 を与えるということです。

① 罪の赦し

問いの中に出てくる「キリストの血」は、答えでは「キリストの十字架の犠牲」と言い直されており、それは「罪の赦し」のためであったと説明されています。この「犠牲」の思想は、旧約聖書に見る動物の犠牲まで遡らなければ理解することができません。人間の罪に対する神の怒りがなだめられるために、動物の命が犠牲としてささげられたのです。神はその血を見ることにより、燃える怒りがなだめられ、罪の赦しを与えることができました。これを示唆する聖句を引用してみましょう。

- ・ それから、彼はイスラエル人の若者たちを遣わしたので、彼らは全焼のいけにえをささげ、また、和解のいけにえとして雄牛を主にささげた。モーセはその血の半分を取って、鉢に入れ、残りの半分を祭壇に注ぎかけた。(出24:5-6)
- ・ そこで、モーセはその血を取って、民に注ぎかけ、そして言った。「見よ。これは、これらすべてのことばに関して、主があなたがたと結ばれる契約の血である。」(出24:8)

念のため言葉の意味を整理しておきましょう。

全焼のいけにえ……神を喜ばせるもの

和解のいけにえ……神の祝福を願うもの

いけにえの目的とは、それをささげる人と神との関係の回復・維持、または祝いのためでありました。血はいのちの象徴であり、それが注ぎかけられることにより、民は聖められたのです。聖くなければ神に近づくことはできません。主イエスの血は、旧約における動物の犠牲の完成形であり、罪人に完全な罪の赦しを与えるものとなりました。先ほど取り上げた出エジプト記の箇所では、動物の血が半分ずつに分けられ祭壇と民に注ぎかけられています。この方法はどこか今で言う「割印」を思い起こさせないでしょうか。この解釈が正しければ、神と民は両者の合意により「血印」を押したことになります。

② 新生

答えの後半で「またそれは、聖霊により新しくされ、キリストの肢として潔められ、したがって私たちが一段と罪に死に、聖別されて、罰せられることのない人生を生きる」と言われています。この中心にある「新しくされる」ということが、洗礼がもたらすもう一つの効果です。水から上がる＝新しく生まれ変わる（新生）。「御霊で洗われる」と言われているように、水は聖霊によって私たちの罪が聖められることを表しているのです。洗礼式は「聖め」のスタート地点に立ったことを意味し、そこから繰り返し聖霊によって洗われ続ける人生が始まります。「キリストの肢」となって結びつき、主イエスから常に養分をもらって生きているので、その人は常にその血による聖めを受け続けているのです。例えばピッタリとは言えないかもしれませんが、私たちは主イエスの血を輸血されたようなものであり、私たちの中でキリストの血が流れているのです。いえ、キリストの木に接ぎ木されたことにより、キリストの聖なる血によって生かされていると言ったほうが適切でしょう。

今日は「罪の赦し」と「新生」という、洗礼がもたらす二つの効果を学びました。最後に、主イエスがご自分をぶどうの木に譬えて話された箇所を引用しておきます。

わたしにとどまりなさい。わたしも、あなたがたの中にとどまります。枝がぶどうの木についていなければ、枝だけでは実を結ぶことができません。同様にあなたがたも、わたしにとどまっていなければ、実を結ぶことはできません。（ヨハネ15:4）

主に留まっている者は赦され続け、日々新たに生まれ変わる人生を歩んでいるのです。自分の内に流れる「新しいいのち」を、毎朝目覚めるたびに確認しましょう。